

中国思想中国哲学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
中国思想特論Ⅰ	明代前中期儒仏道三教思想研究	2	三浦 秀一	前期 木曜日 2 講時	中国思想中国哲学特論Ⅰ
中国思想特論Ⅱ	隋・初唐思想史の研究	2	齋藤 智寛	後期 木曜日 2 講時	中国思想中国哲学特論Ⅱ
中国思想特論Ⅲ	「場所」から語る中国近世儒学史	2	早坂 俊廣	前期集中 その他 連講	中国思想中国哲学特論Ⅲ
中国思想史総合演習Ⅰ	中国思想研究上の諸問題 1	2	三浦 秀一 齋藤 智寛	前期 金曜日 5 講時	中国思想中国哲学研究演習Ⅲ
中国思想史総合演習Ⅱ	中国思想研究上の諸問題 2	2	三浦 秀一 齋藤 智寛	後期 金曜日 5 講時	中国思想中国哲学研究演習Ⅳ
中国思想文献研究演習Ⅰ	荒木見悟博士「朱子の哲学」研究	2	三浦 秀一	前期 水曜日 2 講時	中国思想中国哲学研究演習Ⅰ
中国思想文献研究演習Ⅱ	清代学術の研究	2	齋藤 智寛	後期 水曜日 2 講時	中国思想中国哲学研究演習Ⅱ

科目名：中国思想特論 I / Chinese Thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：三浦 秀一

コード：LM14204 科目ナンバリング：LGH-PHI610J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：中国思想中国哲学特論 I】

1. 授業題目：明代前中期儒仏道三教思想研究
2. Course Title (授業題目)：Study on three teachings during the early Ming Era
3. 授業の目的と概要：本講義は、明朝前半における儒仏道三教思想の実態解明を目的として、明朝の宗教政策や知識人士大夫による三教観、仏者による道教批判、老子注に見える三教一致思想などを解説する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this lecture is to clarify the actual situation of the three teachings in the first half of the Ming dynasty. It will be conducted by explaining the religious policy of the Ming dynasty, the view of the three teachings by the intellectual scholar official, the criticism of Taoism by the Buddhist priests, the idea of the three teachings in Laozi's notes, and so on.
5. 学習の到達目標：明代思想史における儒仏道三教の位置づけを把握する。
三教思想の個別形態を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand both the position of three teachings and their individual aspects in the intellectual history of the Ming dynasty.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：ガイダンス
第2回：研究史概観
第3回：洪武・永楽朝における宗教政策
第4回：明代前期知識人の三教観①
第5回：明代前期知識人の三教観②
第6回：『尚理編』と『尚直編』①
第7回：『尚理編』と『尚直編』②
第8回：陳献章と太虚法師①
第9回：陳献章と太虚法師②
第10回：王守仁の三教観
第11回：祝允明の三教観とその余波①
第12回：祝允明の三教観とその余波②
第13回：嘉靖期における老子注と三教①
第14回：嘉靖期における老子注と三教②
第15回：まとめ
8. 成績評価方法：
レポート (50%)
授業時間内における討論への参加度 (50%)
9. 教科書および参考書：
教科書は使用せず、プリントを配布する。参考書は授業時間内に紹介する。
The text will be handed out during the course. Reference books will be introduced during class.
10. 授業時間外学習：授業で解説した文献史料を改めて精読する。その文献に記された内容の思想史的位置を考える。
Carefully read the historical documents explained in the class. Consider the ideological position of the content described in the document.
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
特になし。

科目名：中国思想特論Ⅱ／ Chinese Thought (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛

コード：LM24204 科目ナンバリング：LGH-PHI611J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：中国思想中国哲学特論Ⅱ】

1. 授業題目：隋・初唐思想史の研究
2. Course Title (授業題目)：Study of the Chinese thought in the Sui-Early Tang period
3. 授業の目的と概要：唐・道宣『続高僧伝』の習禅篇、感通篇、護法篇などを材料に、仏教と士大夫思想との交渉、世界観、三教交渉といった中国中世宗教思想の諸問題について考察する。『続高僧伝』の記事を『広弘明集』『集古今仏道論衡』などの道宣によるその他の編纂物や、同時代の仏教史書の記述とも比較しつつ、仏教史研究の資料とする視点と、道宣の思想や太宗朝の思潮をうかがう視点とから論じたい。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides explanations of various kind of topics about Buddhism in medieval China, such as the layman Buddhism, the world view and the ideological exchange between three teachings, focusing on the some chapters of the Xu Gaoseng Zhuan(續高僧傳) such as the chapter of dhiyana practitioners, the chapter of miracle monks and the chapter of protencion of Buddhism. These hagiographies will be read various points of view in this course, such as a history of medieval Chinese Buddhism or philosophical texts which remain thought of Daoxuan and Buddhists in the Taizong (太宗) period. The course also compares the Xu Gaoseng Zhuan with other Daoxuan's works such as the Guang Hongming Ji(廣弘明集), the Ji Gujin Fodao Lunheng(集古今佛道論衡) or Buddhist histories in the early Tang.
5. 学習の到達目標：取り上げた諸資料の成り立ちと内容を理解し、こうした編纂物を利用した思想史研究の方法を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course helps students understand formation and contents of biographies of eminent monks. And understand a research method which using this kind of materials.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1、導入
 - 2、『続高僧伝』と士大夫の仏教理解(1)
 - 3、『続高僧伝』と士大夫の仏教理解(2)
 - 4、『続高僧伝』と士大夫の仏教理解(3)
 - 5、『続高僧伝』と士大夫の仏教理解(4)
 - 6、『続高僧伝』と士大夫の仏教理解(5)
 - 7、『続高僧伝』と道宣の世界観(1)
 - 8、『続高僧伝』と道宣の世界観(2)
 - 9、『続高僧伝』と道宣の世界観(3)
 - 10、『続高僧伝』と道宣の世界観(4)
 - 11、『続高僧伝』と道宣の世界観(5)
 - 12、『続高僧伝』護法篇と道宣のその他の編著(1)
 - 13、『続高僧伝』護法篇と道宣のその他の編著(2)
 - 14、『続高僧伝』護法篇と道宣のその他の編著(3)
 - 15、まとめ
8. 成績評価方法：

レポート(100%)
9. 教科書および参考書：

講義中に随時紹介する。
10. 授業時間外学習：講義で取り上げた高僧伝類の原典や、紹介された参考書は積極的に読むこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：中国思想特論Ⅲ／ Chinese Thought (Advanced Lecture) III

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：早坂 俊廣

コード：LM98821 科目ナンバリング：LGH-PHI612J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：中国思想中国哲学特論Ⅲ】

1. 授業題目：「場所」から語る中国近世儒学史
 2. Course Title (授業題目)：Neo Confucianism from the perspective of place
 3. 授業の目的と概要：中国近世儒学史（宋代から清代初期までの儒学思想史）を、「場所」（人々が密集し、密接な交流をおこなう空間）に視点を据えて検討する。「人々が集い、共に語らう場所」に於ける討議や交流、学術継承の営みや「長く語り継がれる場所」をめぐる記憶と記録、語り継がれる場所の物語等を多角的に分析する。扱う地点としては、現在の浙江省・江蘇省・江西省・安徽省を、扱う思想家としては、朱熹、陸九淵、楊簡、王守仁、王畿、羅洪先、劉宗周、黄宗羲、邵廷采、萬斯同、全祖望らを想定している。
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will understand the history of NeoConfucianism from the perspective of "place" (a space where people gather and interact closely). The lecturer explains the discussions and exchanges in "a place where people gather and talk together", the activities of academic succession, the memories and records of "a place that can be handed down for a long time", and the stories that are handed down from various angles.
 5. 学習の到達目標：・中国近世儒学史について理解を深めることができた。
・伝統中国における学問・思想のあり方について理解を深めることができた。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students understand the history of Neo Confucianism and the way of learning and thinking in traditional China.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) 「場所」から語る中国近世儒学史 序論
 - 2) 「鵝湖の会」伝説
 - 3) 白鹿堂書院
 - 4) 楊簡と慈湖の物語
 - 5) 場所の物語としての「婺学」
 - 6) 宋元交替期の遺民の物語～冬青樹と嚴子陵釣台～
 - 7) 天泉橋問答
 - 8) 羅洪先の記録1：「冬遊記」
 - 9) 羅洪先の記録2：二つの「夏遊記」
 - 10) 青原の会と水西の会
 - 11) 紹興證人会と「白馬別会」
 - 12) 姚江書院
 - 13) 全祖望の記録1 書院について
 - 14) 全祖望の記録2 蔵書楼について
 - 15) まとめ
- 方法：講義形式で行うが、演習や討議も取り入れる。受講者はあらかじめ配付された資料等に目を通しておくこと。また、授業で取り上げる諸問題について、討議を行うこともあるので、主体的に参加すること。
8. 成績評価方法：

評価項目としては、授業中に課す課題(20%)、事後に課すレポート(60%)、授業における発言(20%)をもとに、総合的に評価する。
 9. 教科書および参考書：

教科書は特に使用しない。プリントを配布する。

参考書：湯浅邦弘編『中国思想基本用語集』（ミネルヴァ書房）、小島毅著『朱子学と陽明学』（ちくま学芸文庫）
 10. 授業時間外学習：事前に配布する講義資料について、一通り目を通しておくこと。事後に、講義資料を原典の文脈に立ち返って確認しておくこと。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
特になし。

科目名：中国思想史総合演習 I / History of Chinese Thought(Integration Seminar)I

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：三浦 秀一 齋藤 智寛

コード：LM15501 科目ナンバリング：LGH-PHI613J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：中国思想中国哲学研究演習Ⅲ】

1. 授業題目：中国思想研究上の諸問題 1
 2. Course Title (授業題目)：Major Issues in the Research of Chinese Philosophy 1
 3. 授業の目的と概要：前期での発表や討議にもとづいて、受講者各自が、それぞれの研究テーマにもとづく論文の草稿を作成して発表するとともに、受講者全員が、その発表にもとづいて自由に討論する。
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to supply students with an opportunity of delivering their own essay on any philosophical topic they choose, and thereby to help them to enhance their level of research, to develop their ability to express their thought clearly, to respond to each question accurately, and to persuade others effectively. Students are also given a chance of thinking critically about other opinions, through commenting on essays of other students.
 5. 学習の到達目標：みずからの研究テーマに関連する学術論文を作成するうえで必要な基礎的技術および能力を向上させることができる。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop their own fundamental skills that enable to summarize preceding research and establish their own research topic.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第 1 回：ガイダンス
 - 第 2 回：発表と討議 (1)
 - 第 3 回：発表と討議 (2)
 - 第 4 回：発表と討議 (3)
 - 第 5 回：発表と討議 (4)
 - 第 6 回：発表と討議 (5)
 - 第 7 回：発表と討議 (6)
 - 第 8 回：中間まとめ
 - 第 9 回：発表と討議 (7)
 - 第 10 回：発表と討議 (8)
 - 第 11 回：発表と討議 (9)
 - 第 12 回：発表と討議 (10)
 - 第 13 回：発表と討議 (11)
 - 第 14 回：発表と討議 (12)
 - 第 15 回：まとめ
 8. 成績評価方法：
 - 発表内容 (50%)、参加態度 (50%)
 9. 教科書および参考書：
 - 教科書はとくに使用しない。受講者各自が事前に配布した発表資料によって授業をおこなう。
- No textbooks are used. Classes will be conducted using presentation materials distributed in advance by each student.
10. 授業時間外学習：担当者は、配付資料を丁寧に作成し、報告の 1 週間前にはそれを配付する。ほかの参加者は、配付された資料を良く読み、授業時における討論の準備を周到におこなう。
The person in charge will carefully prepare the handouts and distribute them one week before the report. Other participants will read the handouts carefully and prepare for discussions during class.
 11. 実務・実践的授業/Practical business
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practical business》
 12. その他：なし
 - 特になし。

科目名：中国思想史総合演習Ⅱ／ History of Chinese Thought(Integration Seminar)II

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：三浦 秀一 齋藤 智寛

コード：LM25501 科目ナンバリング：LGH-PHI614J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：中国思想中国哲学研究演習Ⅳ】

1. 授業題目：中国思想研究上の諸問題 2
 2. Course Title (授業題目)：Major Issues in the Research of Chinese Philosophy 2
 3. 授業の目的と概要：前期での発表や討議にもとづいて、受講者各自が、それぞれの研究テーマにもとづく論文の草稿を作成して発表するとともに、受講者全員が、その発表にもとづいて自由に討論する。
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to supply students with an opportunity of delivering their own essay on any philosophical topic they choose, and thereby to help them to enhance their level of research, to develop their ability to express their thought clearly, to respond to each question accurately, and to persuade others effectively. Students are also given a chance of thinking critically about other opinions, through commenting on essays of other students.
 5. 学習の到達目標：みずからの研究テーマに関連する学術論文を作成するうえで必要な基礎的技術および能力を向上させることができる。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop their own fundamental skills that enable to summarize preceding research and establish their own research topic.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：ガイダンス
 - 第2回：発表と討議 (1)
 - 第3回：発表と討議 (2)
 - 第4回：発表と討議 (3)
 - 第5回：発表と討議 (4)
 - 第6回：発表と討議 (5)
 - 第7回：発表と討議 (6)
 - 第8回：中間まとめ
 - 第9回：発表と討議 (7)
 - 第10回：発表と討議 (8)
 - 第11回：発表と討議 (9)
 - 第12回：発表と討議 (10)
 - 第13回：発表と討議 (11)
 - 第14回：発表と討議 (12)
 - 第15回：まとめ
 8. 成績評価方法：
 - 発表内容 (50%)、参加態度 (50%)
 9. 教科書および参考書：
 - 教科書はとくに使用しない。受講者各自が事前に配布した発表資料によって授業をおこなう。
- No textbooks are used. Classes will be conducted using presentation materials distributed in advance by each student.
10. 授業時間外学習：担当者は、配付資料を丁寧に作成し、報告の1週間前にはそれを配付する。ほかの参加者は、配付された資料を良く読み、授業時における討論の準備を周到におこなう。
The person in charge will carefully prepare the handouts and distribute them one week before the report. Other participants will read the handouts carefully and prepare for discussions during class.
 11. 実務・実践的授業/Practical business
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practical business》
 12. その他：なし
 - 特になし。

科目名：中国思想文献研究演習 I / Literature on Chinese Thought (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：三浦 秀一

コード：LM13204 科目ナンバリング：LGH-PHI615J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：中国思想中国哲学研究演習 I】

1. 授業題目：荒木見悟博士「朱子の哲学」研究

2. Course Title (授業題目) : Study on "Shushi no Tetsugaku (Zhu zi's philosophy)" by Dr. Kengo ARAKI

3. 授業の目的と概要：本講義では、受講者による輪番の形式で、荒木見悟博士の主著である『仏教と儒教——中国思想を形成するもの』(1963、新版 1993) の「第三章 朱子の哲学」を読む。その目的は、荒木博士のこの論文に示された原典に対する分析方法や思想内容に対する解釈態度などを明らかにすることにより、受講者各自の朱子学に対する理解および思想分析の手法の洗練をめざす点に在る。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this lecture, students will read "Chapter 3 Zhuzi's Philosophy" in "Buddhism and Confucianism" (1963, new edition 1993), which is the main work of Dr. Kengo ARAKI. The purpose is to clarify the analysis method for the original text and the interpretation attitude for the philosophical content shown in this paper by Dr. Araki, so that each student can improve the understanding of Cheng-Zhu learning and the method of ideological analysis.

5. 学習の到達目標：朱熹の思想をその原典に即して理解する。道学の思考方法に通暁する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will understand Zhu Xi's philosophy in line with the original text, and will also be familiar with the way of thinking of New Confucianism.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：ガイダンス

第 2/3 回：第一節・大慧宗杲の立場

第 4 回：第二節・現実性把握様式の転換

第 5 回：第三節・天と心

第 6 回：第四節・所当然と所以然

第 7 回：第五節・本然の性と気質の性

第 8 回：中間まとめ

第 9 回：第六節・四端説

第 10 回：第七節・未発と已発

第 11 回：第八節・持敬

第 12 回：第九節・格物致知

第 13 回：第十節・豁然貫通

第 14 回：まとめ①

第 15 回：まとめ②

8. 成績評価方法：

発表内容 (50%)、参加態度 (50%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しないがそれに準じるものとして下記 2 点の書物は必携。その他の参考文献は、随時紹介する。

荒木見悟『仏教と儒教』(1963:平楽寺書店、新版 1993:研文出版)

荒木見悟責任編集『朱子・王陽明』(1978:中央公論社・世界の名著 19)

10. 授業時間外学習：担当者は、配付資料を丁寧に作成し、報告の 1 週間前にはそれを配付する。ほかの参加者は、配付された資料を良く読み、授業時における討論の準備を周到におこなう。

The person in charge will carefully prepare the handouts and distribute them one week before the report. Other participants will read the handouts carefully and prepare for discussions during class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

特になし。

科目名：中国思想文献研究演習Ⅱ／ Literature on Chinese Thought(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛

コード：LM23204 科目ナンバリング：LGH-PHI616J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：中国思想中国哲学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：清代学術の研究
2. Course Title (授業題目)：Reading and Research：philosophy and philology in the Qing dynasty
3. 授業の目的と概要：清代の經学または考証学的な著作を選読する。清代の思想と学術について原典を通じた理解を得ること、中国古典文の日本語による訳注を作成する能力を身につけるのが目標である。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course students will read several works of philosophy or philology in the Qing dynasty. This course aims to improve students ability to make Japanese translation with notes for traditional Chinese texts, also aims to achive undarstanding of the thought of the Qing dynasty through reading the texts.
5. 学習の到達目標：思想文献の論旨を理解し、精確な訳注を作成することができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students deeply understand Chinese philosophical text and make an academic tranlation and note by Japanese.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 導入
 2. 清代思想文献会読1
 3. 清代思想文献会読2
 4. 清代思想文献会読3
 5. 清代思想文献会読4
 6. 清代思想文献会読5
 7. 清代思想文献会読6
 8. 清代思想文献会読7
 9. 清代思想文献会読8
 10. 清代思想文献会読9
 11. 清代思想文献会読1 1
 12. 清代思想文献会読1 2
 13. 清代思想文献会読1 3
 14. 清代思想文献会読1 4
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

発表と討論での発言状況（100%）
9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布する。
10. 授業時間外学習：予習のほか、未解決箇所は授業後に調べて次回の討論に備えること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし